

資料 - 3

第1回紀の川流域委員会準備会議

- <<参考資料>>紀の川流域の概要 -

平成13年1月18日

紀の川流域の概要

流域概要

紀の川は、日本最多雨地帯として名高い紀伊半島北西部の大台ヶ原を水源として、大和丹生川、紀伊丹生川、貴志川などを集めながら紀伊半島を西流し、紀伊水道に注ぐ流域面積1,750km²、幹川流路延長136kmの一級河川である。

紀の川流域は、奈良県と和歌山県の2県にまたがり、流域内の市町村は、和歌山市、橋本市、五條市、海南市など5市17町5村にも及び、吉野地方及び紀北地方における社会、経済、交通、文化の基盤をなしている。

紀の川流域内の人口は約69万人（平成7年国勢調査）であり、内訳は和歌山県内約60万人、奈良県内約9万人となっている。



流域概要図

降水特性

流域の気候は、中・下流部は瀬戸内気候区に属し、年平均気温が和歌山市で16℃、かつらぎ町で15℃程度と温暖であるが、高野山や上流部の吉野地方の山地部では年平均気温が10℃前後と寒さも厳しい。

平均年間降水量は中・下流部で約1,630mm、上流部で約2,640mm、流域平均で約2,020mmとなっている。降雪は上流山岳地帯に多く、下流では少ない。

出水期（6～10月）の降水は平均約1280mmで平均年間降水量の約6割である。大きな降水の原因は台風に起因するものが大半で、約65%を占める。そのため、台風の進路となる大台ヶ原では地形性降雨による非常に大きな降水が発生する。



紀の川流域の年降水量（平成1～5年の平均値）